

平成 31 年度 第 1 回
希望郷いわてモニターアンケート質問書

課題名	多文化共生に関する意識調査
-----	---------------

平成 31 年 4 月
岩手県政策地域部国際室

※この質問書は控えとしてお持ちいただき、回答用紙に答えをお書きください。

多文化共生に関する意識調査

政策地域部国際室

【多文化共生について】

「多文化共生」とは、国籍や民族等の違いにかかわらず、全ての人がお互いの文化的背景や考え方を理解し、地域社会を支える主体として共に生きることです。

I 調査の目的

県では、平成22年2月に「岩手県多文化共生推進プラン」を策定、平成26年3月に改訂し、多文化共生社会の実現に向け、各活動主体と連携し、取組を進めているところです。

本県における在留外国人数は、平成22年（2010年）12月末は6,191人でしたが、東日本大震災津波の発災後の平成23年（2011年）12月末には5,234人と大きく減少しました。その後、徐々に増加し、平成29年（2017年）12月末には6,627人となり、東日本大震災津波の発災前の107.0%になっています。

国においては、新たな在留資格¹の創設など、外国人材の受入拡大に向けた取組を更に進めることとしています。

また、東日本大震災津波の発災以降、多くの外国人が岩手を訪れて県民との交流を深め、また、本県から多くの若者が海外に招かれるなど、これまでにない規模で、県民が世界とつながる機会が増加しています。

在留外国人の増加に伴い、外国人にとっても暮らしやすい環境づくりのため、市町村、国際交流協会等の関係機関と連携して、外国人県民等の言葉の壁や生活上の不便の解消、互いの文化や習慣などの多様性の理解促進に向けた取組を進めていく必要があります。

こうしたことから、多文化共生に関する県民の皆さんの意識を調査し、岩手県多文化共生推進プランの改訂及び本県の多文化共生施策の推進の参考としようとするものです。

お忙しい中大変恐縮ですが、御協力のほどよろしくお願いします。

II 質問

問1 あなたは、「多文化共生」ということばを御存知でしたか。あてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 知っている
- ② 聞いたことはあるが、内容はわからない
- ③ 知らない

¹ 在留資格：外国人が日本に在留することについて、法が定める一定の資格。

問2 岩手県民が外国人と接する機会が増えていると感じますか。あてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 強く感じている
- ② どちらかと言えば感じている
- ③ あまり感じない
- ④ 全く感じない
- ⑤ わからない

☞ ①又は②を選んだ方は、主にどのような外国人と接する機会が増えていると感じるか、次のア～クの中から1つ選び、回答欄に記入してください。

【主に接する外国人】

- ア 東日本大震災津波の復興支援ボランティア
- イ 観光客
- ウ 工場などに勤務する実習生
- エ 留学生
- オ 語学教師など、身のまわりで就労している外国人
- カ 配偶者として来日した外国人
- キ 長期間（10年以上）住んでいる外国人
- ク その他（ ）

問3-1 外国人住民が増えることについてどのように思いますか。あてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 非常に良いことだと思う
- ② どちらかと言えば良いことだと思う
- ③ あまり良いことだとは思わない
- ④ 懸念や不安がある
- ⑤ わからない

☞ ①又は②と答えた方は、問3-2に進んでください。

☞ ③又は④と答えた方は、問3-3に進んでください。

問3-2 地域に外国人が増えることで、どんなことを期待しますか。次の中から2つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 外国人との交流の機会が増えること
- ② 国際的な感覚を持った人材が増えること
- ③ 外国人技術者・労働者が増え、地域経済が発展すること
- ④ 外国の生活習慣・文化を知ることができること
- ⑤ 外国語に触れる機会が増えること
- ⑥ 日本の文化が外国人に広まること
- ⑦ その他（ ）

問3-3 どのようなことを懸念したり、不安に思ったりしますか。最もあてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 事件・犯罪の増加や、治安が悪化すること
- ② 日本人の雇用が悪化すること
- ③ 生活習慣の違いによるトラブルが発生すること
- ④ 外国人に良いイメージを持っていないこと
- ⑤ 基本的な信条や信念の違いを認めること
- ⑥ その他（ ）

問4 あなたは現在、地域に暮らす外国人とどのようなつきあいがありますか。また、今後どのように接していきたいと思いますか。現在と今後について、最もあてはまる番号をそれぞれ1つ選び、回答欄に記入してください。

現在	今後
① あいさつをする程度	① あいさつをする程度
② お祭りなど地域行事で一緒になる	② お祭りなど地域行事で一緒になる
③ スポーツや文化活動を共にする	③ スポーツや文化活動を共にする
④ 友人としてつきあっている	④ 友人としてつきあう
⑤ 家族同様に親しくつきあっている	⑤ 家族同様に親しくつきあう
⑥ 全くつきあいが無い	⑥ 全くつきあわない
⑦ 近くに住んでいない	⑦ わからない

問5 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、外国人住民にどのようなことを期待しますか。最もあてはまる番号を1つ選び、回答欄に記入してください。

- ① 日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい
- ② 日本語や日本の文化などを学んでほしい
- ③ あいさつや言葉を交わしてコミュニケーションをとってほしい
- ④ 地域の活動に参加してほしい
- ⑤ 生活の中で感じたことを提案や発言してほしい
- ⑥ 外国の言葉や文化を教えてほしい
- ⑦ 特になし
- ⑧ その他 ()

問6 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、あなたはどのようなことがしたいですか。次の中から3つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 外国の文化や生活習慣などを理解したい
- ② 外国語を学びたい
- ③ 自分から外国人に話しかけるようにしたい
- ④ 日本人住民と外国人住民が交流する行事などがあれば参加したい
- ⑤ 地域や職場・学校など普段の生活の中で交流したい
- ⑥ 身近な場で相談に乗りたい
- ⑦ 外国人が日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどを学ぶ手助けをしたい
- ⑧ 外国人が日本語を学ぶ手助けをしたい
- ⑨ 何もしたくない
- ⑩ その他 ()

問7 ILC（※）の実現により、世界最先端の研究を行うため、海外から大勢の優秀な研究者やその家族などが本県に移住することが予想されますが、このことについてあなたはどのような効果を期待しますか。次の中から2つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 地域住民の国際理解が進展すること
- ② 地域住民のコミュニケーション能力や国際感覚が養成されること
- ③ 地域の人口減少に歯止めがかかること
- ④ 科学技術分野における教育水準が向上すること
- ⑤ 雇用創出などの経済効果が生まれること
- ⑥ 研究成果と合わせて、地域の文化や魅力が世界中に発信されること
- ⑦ 特になし
- ⑧ その他（ ）

※ ILC：International Linear Collider（国際リニアコライダー）の略。全長20～50 kmの地下トンネルに建設される、電子と陽電子を加速、衝突させ質量の起原や時空構造、宇宙誕生の謎の解明を目指す大規模施設。研究者会議により、本県の北上山地が候補地に国内建設候補地として選定されている。

問8 多文化共生社会づくりのためにどのような取組が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- ① 外国人住民に対して、生活のルールや習慣、文化の違い等を周知
- ② 生活相談窓口の設置など、外国人住民に対する相談体制の充実
- ③ 日本語教室の設置など、日本語に関する学習機会の充実
- ④ 生活に必要な情報（居住、教育、医療、福祉、災害など）を多言語で提供
- ⑤ 外国人住民の自治会・町内会などへの参画の促進
- ⑥ イベントの開催など、外国人との交流の場の設定
- ⑦ 外国人を支援するボランティアの育成
- ⑧ 外国人住民だけでなく、外国人観光客も積極的に受け入れるなど、外国人と接する機会の増加の促進
- ⑨ 「多文化共生」に関する意識啓発や国際理解の促進
- ⑩ わからない
- ⑪ その他（ ）

問9 その他、多文化共生について、御意見等ありましたら、御記入ください。

（回答用紙の「問9」の欄へご記入ください。）

最後に、あなたの性別、年齢、職業、居住地をお聞かせください。

(1) 性別 ① 男性 ② 女性

(2) 年齢 ① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代以上

(3) 職業

- ① 自営業（農林漁業） ② 自営業（農林漁業を除く） ③ 会社員
④ 団体職員 ⑤ 専業主婦（夫） ⑥ 学生
⑦ 無職 ⑧ その他

(4) 居住地域

- ① 盛岡地域 ② 花巻地域 ③ 北上地域 ④ 奥州地域 ⑤ 一関地域
⑥ 遠野地域 ⑦ 大船渡地域 ⑧ 釜石地域 ⑨ 宮古地域 ⑩ 久慈地域
⑪ 二戸地域

※御協力ありがとうございました。